

# 変態ダメ人間系男子がTSする話

萩村和恋

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

これは変態ダメ人間系男である俺、津羽和がロリ巨乳になって日常を送る物語…いや待て、なんで！俺がTSなんかしてるんだよおおお！お!?

# 目次

プロローグ、やっぱりロリ巨乳だな。	1
第一話、まあとりあえず落ち着こうや	4

プロローグ、やっぱロリ巨乳だよな。

「ふひっ、きよ、今日も可愛いよおペタちゃそく！やべっ可愛すぎて死ぬわこれwデユフフフフオw」

狭い部屋に男が一人、パソコンの画面に写った胸のない美少女を見ながら息を荒らげていた。……その男つてのがまあつまりこの俺、津羽和である。

高校生の頃、俺は自分のやりたいことも夢もなくて社会から逃げた。その結果が今の俺、髪はボサボサで目の下の隈が酷くて姿勢も猫背な俺、ダメ人間で変態なのは元々なのでそこは別にいい。そしてこんな自分を卑下するような言い方だが、俺は今の自分を嫌っちゃいない。

「推しもいるし金もある、それに身体も意外と健康だしな！」  
運動とかもしてるからな、それなりに健康体である。BMIも平均値だし。

今の生活を支えてくれているのは家族と友人だ、毎月超多額が何故か仕送られてきているから金は大丈夫だし友人がたまに遊びに来るので寂しい思いもない。最高の毎日である。

「はーペタちゃそ可愛すぎる：俺も美少女になりてえなく。クツツツツ可愛い美少女にさあくなりてえくくく！ふ、ふひひっ。」

画面の中の美少女を見ながらそう、願望を言う。叶う訳なんてないけど、言うこと自体は自由だろ？

いや、でもまさかこの時の発言がさ………本当に叶っちゃうとは思わねえよ……。

その日も、俺はいつも通り目を覚ました。いつもと同じ部屋、いつもと同じ天井、でもなんか違和感があった。……特に胸部と局部、つまり股間だ。

「まあどうでもいいか……あ?」

ア、アレー?なんか声違くてねえ!?!いや元々高い声だったけどこれは高いっつーよりロリっつーかなんっつーか、女の子の声……っつーか……ま、まさか!?

ベッドから飛び起きて寝ぼけた頭で洗面台まで行く、な、なんか胸が重い……っか目線が低い……!やっとの事で洗面台までいき……鏡をみる。そこに居たのは……

「あ、あ ば ば ば ば ば ……!? なん じや こりやあああああああああああ!?!」

知らないロリ巨乳だった。

以下設定

名前：津羽和

性別：男性

年齢：19歳

身長：162cm

体重：53キロ

趣味：ゲーム、アニメ、漫画、エロサイト巡り。

苦手なもの：人混み

黒のボサボサロングヘアに黒くツリ気味な目の下酷い隈がある。顔立ちは普通で身長も普通、むしろ少し低い方なのではないだろうか。

高校生時代に自分の将来を考えれずに絶望、その後割り切って最早ダメ人間として生きていくことにした。一応実家から離れて深夜のコンビニや警備員のバイトをしているらしいが真偽は不明。

根っこの部分はしっかり者なのだが普段は変態ダメ人間と言った方が適切。それと童貞である。

可愛い子の胸が好きで貧乳が好きとかではない、噂によると可愛ければ男でもいいらしい。

名前：津羽和(?)

性別：女性

身長：148cm

体重：40キロ

スリーサイズ：91／78／84

年齢：見た目は12，3くらいである。

趣味、苦手不明

和が現在意識を得ている肉体、元々誰かの肉体だったのかすら分からない。

ピンクの長い髪にハートマークのアホ毛、綺麗な黄金色の瞳が特徴的だが何よりも特徴的なのはそのおっぱいである。デカイのだ、つか重いのだ、つかやべーのだ。

この肉体になってからかわいい服を異様に着たくなってくるらしい。

ペタちやそ

性別：おにやのこ

身長：160cm

体重：49キロ

スリーサイズ：64／62／74

年齢：17歳

趣味：お菓子作り

苦手：近所のおじさん

和が好きなゲーム『ドキドキ☆ガールズライフ』に出てくるヒロイン、ペタは通称で名前は鶴野平子。茶髪のポニテにほのぼのとした茶色のタレ目とは裏腹に主人公への態度が厳しめなところが萌え要素、作中のキャラの中では人気あまりない方だが一定層のファンはしっかりという。続編である『ドキドキ☆ガールズライフ』ではドラムの才能があることが判明している。

## 第一話、まあとりあえず落ち着こうや

「う、うわーデケエ…スゲエデケエ…これが生おっぱいか……。っーか俺すげー可愛くね？マジ美少女じゃん…いやロリか、ロリだよなコレ…。」

大声で叫んだあと、俺は自分の見た目を見ていた。デケエおっぱいに可愛い顔、それに声も可愛い……。完璧だ、完璧すぎる。

「ロリでありおっぱいもありその上可愛い声、最強じゃねえか！ツヒュー！」

そらテンションだつて上がる…さてと、着替えるか。きがえ？

「待てやばいぞ…お、俺の服じゃサイズが合わねえ…。それに女の子の下着なんてねえぞ俺！確か胸つてブラつけねえと大変なんだよな？ど、どうしようどうしようどうしよう……。！」

と焦っている、ピリリリーピリリリーと電話の音が鳴り響いた。こんな時に誰だつてんだこんちきしよう！スマホを手につけて画面を確認すると『将次』の2文字が写し出されていた。将次っつーのは俺の友人であり俺の同志でありそして超ド級のロリコンである。そう、つまり今一番会いたくないのだ。っーかそれ以前に今の俺はロリ巨乳…そう、女の子なのだ。こんな状態が出るのもな…メッセージでのやり取りにしてみるか。

和『ホイホイ、なんか用か？』

将次『実は暇で遊びに来たで。起きとつた？』

和『おうおう起きてたわ。』

将次『ところでなごく、なごこの部屋から天使のけはいの気配がするんやけども……。もしかして、妹ちゃんとかおる？』

怖!?!えっ何こいつそんなこと出来たのかよ!?!俺は焦りながら

和『なんでお前未だ語られてねえ俺の妹の話するんだよやめろやめろ。』

どうしようか……。外からはテノールボイスで「なごくはよあけてーやぐ。」と聞こえてくる。クソ！今出たら確実にやべえ…。だけど追い返すのも親友にはしたくねえし……。し、仕方ねえ腹ア割って話す

か！

無言で玄関まで行き鍵を開け…ドアノブをひねる。

「やつほー！来たでくな……ご……。な、なななななこの部屋にめっちゃ可愛ええ口リ巨乳がおるやおおおおおおおとおおおおおとおおおおおお!?な、なんでや！なんでや！ちゅーかなごが！見当たらないやないかい！」

玄関の先にいたわが友、将次…一之宮将次がいた。180はありそうな高身長と細目が特徴的なエセ関西人イケメンである。案の定凄いい取り乱してるな……。

「まあまあとりあえず落ち着こうや将次。気持ちわりーぞ。」

「ハアハア……知らない子に罵られるのもええなあ！」

「うっわホントキモ！てか落ち着けて俺だよ俺、和だよドアホ！」

「……は、はあ……？」

「話、聞いてくれるな？」

キョトンとした顔でも将次は頷いた。

「つまり……君は、突如TSして口リ巨乳になったなご……と。」

「そういう事〜！わかんねえってならお前のエロ本の隠し場所と内容言っぜ。」

「い、いやええわ。確かに喋り方とか仕草にところどころなごらしいと感じるし……。にしても、ほんつつつま美少女になったなあなご、良かったやん。」

「ああ、良かった……んだけどき。なあ将次、俺これから…仕事どうすればいいと思う……？」

「あーそうやねえ…流石にどうこうできないやつやるな。もういつその事やめてまえば？ワシの方から連絡とかしてみよっか？」

「んーいや、流石にこればかりは俺の方から言うよ。」

言うが早いが携帯電話で仕事先…まずはコンビニエンスストア『グリーンナイン』の店長に電話をする。流石にメッセージで仕事を辞めるって言うのはしたくない、けどさすがにこのままじゃ出れない。今とんでもねえ格好だし。コールが3回なった後…店長が出た。



『はいもしもし、どうしたのかね津羽くん。』  
電話先から聞こえてくる凛々しい女性の声を確認する。

『あーいや、実は諸事情で仕事を辞めたいのですが…いいですか?』  
『ん、まあ良いけど…君女の子にでもなったのかい?津羽くんはそんな幼い少女のような声では無かった筈だがね。』

ギクツ…だ、だよなあ…やっぱそう来るよなあ!えーとなんて言うか…。

『じ、実は私とお兄ちゃんの妹でして、兄は今世にも奇妙な身体が透明になる病気に罹っちゃって』

我ながら嘘が酷すぎる、こんなんで騙せるかドアホ。

『いや無理があるだろ君、高校時代からうちで働いてる人の喋り方のくせくらいはわかってるぞ。なんでそんな嘘をつくんだい?会いたくないのかい?なら私の方から会いに行くからね君の家で話そうじゃないか。』

『えっいやあのちよつとまつ』

ブチツ!と電話が途切れる音、あ、あの人来る気だ…!?店長の行動力は知ってる、あの人はやると言ったら必ずやる女なのだ…てかヤバいぞ、もう来るのはいいとして(良くねーけど防ぎようがないのも事実だ。)この格好…いい加減言ってしまうが布団を身体に巻きつけてる格好からどうにかしないとイケない…。ええいなんかかないかなんか

『将次く!なんか服持ってねえ!?お前の服なら今の俺でもはいるからあー!』

『持つとらん…けどええわ、上着貸してあげるさかい。下は…:…:そうやな、なんかいらん布あらへん?即興で縫ったるわ。』

『あー…:…:そういやお前裁縫得意だったよな。すまねえ簡単なやつでいいから作ってくれね?見た目だけ何とかかなりやいし…。あああったあった、ほい使わなくなったカーテン』

『なんでそんなもんあるねん!?すこおーしまつとって、直ぐに縫ってまうから。』

『スマン!恩に着る!』

「はいはい今は衣服を着よな。」

と、どっかからか取り出したソーイングセットを駆使して使わなくなったカーテンを加工していく将次、そして……。

「ほい、出来上がったでーなご。どや、パツと見の寸法で作ったからちよつと緩いかもやけど。」

「ありがと〜！ちよつとあつち向いてて、着てみるからさ。」

んー、と適当の返事とともに俺の方から目をそらす、ほんんと天然で紳士な男なのだ。ロリコンじゃなきや完璧である……いや変態の俺が言えたことではない。

お将次から受け取った黒のスカートはしっかりと履けた、よし…OK。

「将次〜良いよー。」

「おー結構な美少女やん。」

「男に褒められてもなあ、まあ悪い気はしねーな。」

と、二人で笑いあっている……ピンポンとチャイムの音が部屋に鳴り響いた。

「き、来たか…よし。」

スー…ハー……と息を整えて覚悟を決める。

ドアノブを握り…捻って玄関のドアを開けた。

「やあ、津羽くん。いや津羽さんと言うべきかな？随分とまあ可愛くなつたね。」

先程電話で聞いた通りの凜々しい声…容姿も全体的に凜としたコンビニ『グリーンナイン』霜月町店長、日野幸華ひのゆきかがそこにはいた。元の身長からでかいと思つてたが縮むとさらにでかく感じるな……。

「こ、こんにちは〜日野店長……。いや待つて！どうして！俺だつてわかるんだよ！おかしいじゃん!!」

「そんなことはどうでもいいだろう、さあ話を聞こう…。む、他に誰かいるのかい？靴が2つある。君は確か一人暮らしだったね…この靴の感じ、さしずめ男友達と言ったところかな。」

うわすっげ…なんでわかるんだよ……。

俺の事などお構い無しにズカズカと部屋に入っていく店長、そして

将次に軽く会釈（補足だが将次も同じとこでバイトしてるので二人は知り合いだ。）してから部屋の真ん中に置いてある机の玄関側へ座った。

「相変わらずの行動力ですね……。逆に感心しますよ。」

「褒めても何も出ないぞ?」

「褒めてないですよ……。」

「所で何時から美少女なのかね?」

「急に話を変えないでえ!?今日の朝です、起きたらこの身体に……。」

ふむ……と小さく呟き俺の事をじつと見る店長、その眼差しは先程までふざけていた表情とは違い明らかに真剣だった。

「店長?店長……。おい幸華さん?」

「……まあいいか。」

「何がいいんだ?よくわからねえ……。」

「とりあえずバイトの方は解雇しておく、それと警備会社の方には私から言っておこう。ああそう……君の、津羽君のその身体だがね。今は13歳の少女だから中学にでも通ってみたらどうかね。」

「ちよつ、ちよつと待つてくださって!いきなり話を進めないでくださいよ……。」

「いきなり何もその為だけに来たのだから……。ではこの書類にサインだけ書いてくれ。それで後のことは任せておくといい。」

店長から書類を差し出される、まあ書くけどさ……。」

「書きました。」

「……いきなり性別も体格も変わるのとは全然慣れないし不安だと思う、だが慣れてしまえば案外どうにかなるものさ。」

書類を受けりながら店長はそう呟いた。

その後、店長は直ぐに帰って将次も帰った。俺は一人部屋の中でブーツとじていた……。」

去り際に呟いていたあのセリフ、慣れてしまえば……か、そういうや店長は俺が女の子になってもすぐにわかった、高校生から俺のことを

知っているから、と言っていたけれどあれはもしかして昔経験したことがあって、実は店長も元は男で、俺と、同じだったりするのかもしれない。

後は……とりあえず服を何とかしなきゃなあ。

キャラ設定？

名前：一之宮将次

性別：男性

年齢：19歳

身長：183cm

体重：79キロ

趣味：通学路見回り、井戸端会議、裁縫

苦手なもの：ホラー映画。

白髪の短髪に狐目のエセ関西人の青年、ガタイも結構良い。

基本的におちやらけててお喋り、真面目な話になると途端に口数が減る。

重度のロリコンで毎日自主的に通学路を見回りしている、実際彼が見つけ、とらえたことで誘拐や通り魔などが豚箱行きになっている。子供達からも学校からも保護者からも何故か信頼の厚いロリコン。

名前：日野幸華

性別：女性

年齢：34歳

身長：178cm

体重：59キロ

スリーサイズ：73／63／78

趣味：人の世話を焼くこと。

苦手なもの：ゴキブリと汚部屋。

黒のポニーテールに黒のツリ目、白い肌が美しい女性。貧乳の事はそんなに気にしてないが弄りすぎるとぶっ飛ばされるので注意。

面倒見がいいが人の目を気にしなすぎるところがある、なんというか下手な男よりも男らしい性格。

声を聞いただけで和がTSしたことが分かったり色々謎がある  
人だが無害なので気にする事はない。